

**福島第一原子力発電所（1F）視察・座談会に参加して**

10月14日、福島第一原子力発電所（1F）視察・座談会に参加しました。富岡町にある東京電力廃炉資料館に集合、1Fの概要について説明を受けました。

次にバスで1Fまで移動。構内に入るには、厳重な身回品の検査が行われます。また、校内での写真撮影は禁止です。すべてがテロ対策のためです。バスで校内を移動します。土曜日の午後なので、作業員の姿はほとんど見えません。食堂を見学しました。定食のカレーセットは390円です。安いですが外から1Fに来て食べることはできません。

バスの中から構内を見ます。放射能汚染水を浄化するアルプスが3台あります。処理能力は3台で2,000t/日です。ちなみに汚染水は、170t/日とのこと。また、台風や大雨では水量は増えます。アルプスではトリチウム（3重水素）は除去できないので、汚染水はタンクに貯蔵されています。そのタンクも2022年夏で敷地は満杯になります。

バスを降りて、安倍首相が背広姿でパフォーマンスした展望台に立ちました。構内の全体が見渡されます。放射線量は $100\mu$ シーベルト（基準値 $0.23\mu$ シーベルトの約435倍）です。3・11の時に爆発したのは、1・2・4号機です。5・6号機は運転していませんでした。1～4号機の周りには、凍土遮水壁が埋められていて、45本のドレーン（井戸）で汚染水をくみ上げています。

8年6か月が経って、校内は放射能防護服を着なくても歩けるようになりました。しかし、建屋の中は放射線量が高いために、大部分の作業はロボットによる作業です。

5・6号機の傍には、タービン建屋と非常用発電機があります。津波の高さは15.6m、もしもそれよりかも高い場所にタービン建屋と非常用発電機があったら、原発事故は起きなかったのです。旧経営陣の責任の大きさについて、改めて実感しました。

免振重要塔があります。2Fの緊急対応室では、当時の吉田所長をはじめとした作業員が、死を覚悟して対応に当たった部屋です。

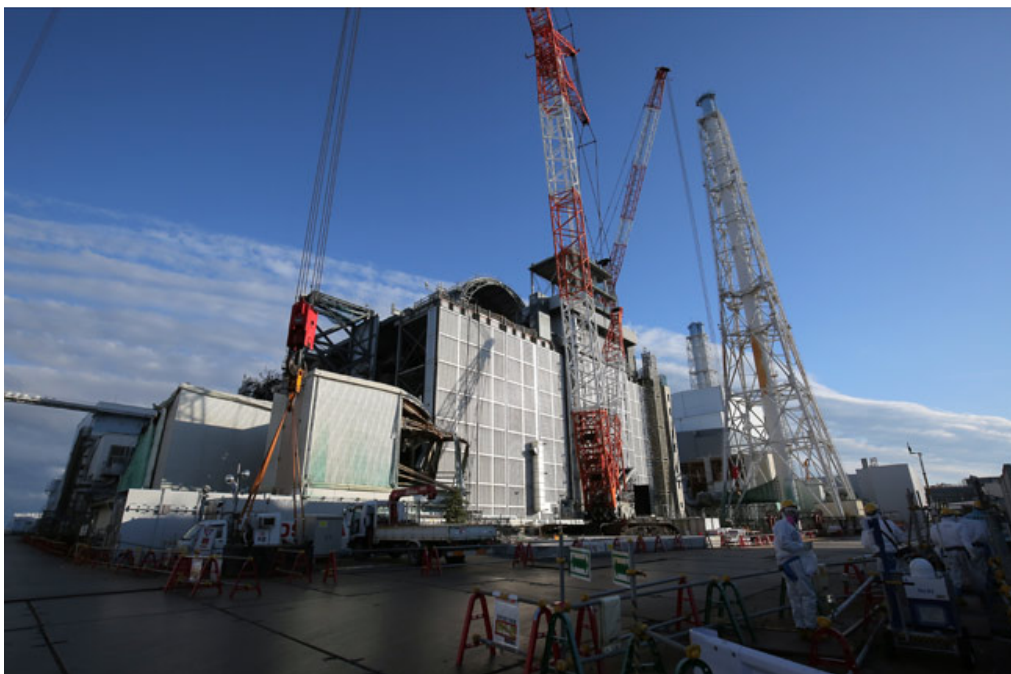
1号機の屋根には、放射性廃棄物の瓦礫が山積みになっています。4号機には、約6,300本の核燃料棒があります。18年間冷却した後で、中間貯蔵施設で保管します。その後、10万年間最終処分場で保管することになります。管理棟に戻って、放射線測定器で被爆線量を確認しました。私の被爆は $0.2\text{mm}$ シーベルトでした。その後バスで、廃炉資料館に移動しました。

最後は、班ごとの座談会です。私の班には、資源エネルギー庁と東京電力の職員の人が同席しました。これらの職員の人とも私も、3・11で人生が変わった（人生が狂った）者同士です。職員の人達と私とは、原発に対する考え方は正反対です。しかし、職員の人達も私も、お互いに3・11で人生が変わった（人生が狂った）者同士です。お互いにエールを送りあって、座談会は終わりにになりました。



東京電力福島第1原発の構内に並ぶ汚染水を入れたタンク=2017年12月7日、福島県大

熊町【時事通信社】



東京電力福島第1原発3号機。最上部では、かまぼこ型カバーの設置が進んでいる=2017

年12月7日、福島県大熊町【時事通信社】